

ドライブ観光におけるカーボンオフセット型ツアーの有効性に関する研究 ～洞爺湖地域におけるモニターツアー参加者意識の把握～*

Study on Eco-Conscious Driving Tourism Through Surveys about Awareness of the Participants
for a Trial Eco Tour in Toyako Area *

中村 幸治**・かとうけいこ***・植村正人****

By Koji NAKAMURA**・Keiko KATO***・Masato UEMURA****

1. はじめに

シーニックバイウェイ北海道では、平成17年度よりエコツーリングの普及、推進による二酸化炭素の排出削減に取り組んでいる。さらに平成19年7月から観光交通における二酸化炭素の削減を目的とし、観光客参加のもと、観光で発生した二酸化炭素を吸収するための植樹活動等を行うカーボンオフセット型の取り組みが実践されている。

本研究では、その一つとして、支笏洞爺ニセコルート洞爺湖エリアにおける地域活動団体との連携による地域資源の活用とエコドライブの推奨、自然環境の保全等を目的とし、札幌圏の観光客を対象としたカーボンオフセット型モニターツアーを実施し、実証的な検証を行った。

本論文では、シーニックバイウェイルートにおける環境に配慮した取り組みに対するニーズを明らかにし、地域活動団体との協働による自然環境の保全とドライブ観光推進の両立等の可能性について考察する。

2. カーボンオフセット型ツアーの概要

(1) カーボンオフセット型ツアーの概要

平成19年度、シーニックバイウェイ支援センターが企画・主催及び協力したカーボンオフセット型ツアーは10本(うち単独:6本、共同:3本、協力:1本)あり、植樹本数は、二酸化炭素排出量に対応した本数を算出し、必要本数以上を植樹場所の管理者と協議して植樹している。

*キーワード:観光・余暇・地球環境問題、市民参加

**正員、工修、(社)北海道開発技術センター

(北海道札幌市中央区南1条東2丁目11番地

TEL011-271-3022、FAX011-271-5366)

***非会員、有限責任中間法人 シーニックバイウェイ支援センター

(北海道札幌市中央区南1条東2丁目11番地、

TEL011-204-7107、FAX011-204-7108)

****正員、工修、植村建設株式会社

(北海道赤平市東文京町1丁目1番地

TEL0125-32-3141、FAX0125-32-3505)

(2) 調査対象としたモニターツアー概要

a) 国道よごさん(453)キャンペーン

国道よごさん(453)キャンペーンは、平成5年に国道453号への昇格をきっかけとして、来訪者が気持ちよく良好な道路沿道景観を楽しんで頂きたいといったおもてなしの心として、シーニックバイウェイ北海道の活動団体である、そうべつくだもの村が中心となり、くだもの村周辺の道路清掃活動を開始したのが始まりである。

その後、シーニックバイウェイ北海道の本ルートに指定されたことを受け、地域活動団体が連携し北海道を代表する観光地である「昭和新山」や「洞爺湖」周辺の道路沿道景観を向上させることを目的に自治体をまたいだ広域による道路清掃活動として平成16年から継続的に実施されている。平成18年には札幌市からも参加者を募り有料バスツアーを実施。平成19年には、本取り組みにおいて排出される二酸化炭素の削減を目的として、カーボンオフセット型ツアーとして参加者とともに植樹活動を行った。

本取り組みの特徴は、以下の通りである。

有料清掃活動バスツアー

- ・洞爺湖を見下ろす高台や昭和新山を望む景観ポイントでのゴミ拾い

札幌～壮瞥までのバス車中ガイド

- ・活動団体メンバーが同乗し車中のガイドを行う
- ・地場食材をふんだんに用いた昼食会
- ・地元米のおにぎり、特製豚汁、お手製漬物等
- ・地場産品が当たるピンゴ大会
- 参加者自らの手による植樹体験

- ・自分たちの手で植えるカラマツ50本

- ・場所は、噴煙間近の洞爺湖町町有地

- 心地よい疲れを癒す温泉入浴

- ・町営温泉入浴

コミュニティFMを活用した情報受発信

- ・ラジオ局(札幌市西区琴似)との連携

b) 「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅

「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅は、シーニックバイウェイ支援センターと地域活動団体の協働

により企画し、2008年7月にサミットが開催される洞爺湖エリアにおいて実施した環境に配慮したハイブリッドカーで巡るカーボンオフセット型レンタカードライブツアーである。なお、このツアーは、国土交通省（運輸局等）「平成19年度ニューツーリズム創出・流通促進事業」に採択された全国47件のうちの1つである。

本ツアーでは、地球環境問題に対する啓発の意味から参加者へのエコツーリングの説明を行うとともに、エコミュージアム体験等の後、ツアー参加者自らが植樹を行い、夜には地域活動団体メンバーとの交流会等も行った。

本取り組みの特徴は、以下の通りである。

レンタカーによるツアー(半団体・半個人)

- ・団体バスツアーに比べて自由度の高いドライブツアー

環境に配慮したペーパーレスによる情報提供

- ・携帯端末、QRコード等の活用による詳細情報提供

ハイブリッド車を利用したエコドライブの推進

- ・「エコドライブ10のすすめ」、「シーニックバイウェイ・エコツーリング」の推奨

- ・燃費効率コンテストの実施

参加者自らの手による植樹体験

- ・自分たちの手で植えるトドマツ60本
 - ・場所は、洞爺湖を見下ろす壮瞥町有地
- 地域住民との交流が充実

- ・エコミュージアム、地域活動団体との交流会、その他オプショナルメニュー等

ツアー実施に向けた民間企業等との連携

- ・旅行企画・実施、レンタカー（ハイブリッドカー）の確保
- ・各種システムの構築等

3. 調査結果概要

(1) 国道よごさん(453)キャンペーンの調査概要

a) 調査概要

支笏洞爺二セコルートにおける地域資源の活用と自然環境の保全等に向けたバスツアー型カーボンオフセットツアーの可能性について検証することを目的として、札幌からのツアー参加者を対象としたアンケート調査を実施し、実証的な検証を行った。

調査項目としては、ツアーの内容に対する評価（訪問地、提供メニュー等）、植樹活動に対する適正価格、次回参加・植樹地の再訪意向、環境に配慮した生活スタイルの改善について等とし、今後のバスツアー型カーボンオフセットツアー継続に向けた検討課題を整理した。（表-1）

表-1 アンケート調査概要

調査日	平成19年9月9日(日)
調査方法	参加者によるアンケート調査票への記入式調査
調査項目	ツアーの内容に対する評価（五段階評価選択式） ・訪問地、提供メニュー等 植樹活動に対する適正価格（選択式） 次回参加・植樹地の再訪意向（選択式） 環境に配慮した生活スタイルの改善（選択式） その他
参加者数	30名（札幌市からのバスツアー参加者）

b) 回答者属性

バスツアーの参加者は、女性が多く43.3%（男性：30.0%、無回答：26.7%）、年代的に見ると60歳以上が最も多く26.7%、次いで50歳代が23.3%と50歳以上で半数を占めている。

c) アンケート調査結果概要

調査方法は、ツアーの内容に対する評価については五段階評価選択式（最大評価を5とする）とし、植樹活動に対する適正価格、次回参加・植樹地の再訪意向、環境に配慮した生活スタイルの改善等については選択式とした。

ツアー内容に対する評価としては、全ての提供メニューについて4.0以上と総じて満足度が高い評価となっている。なかでも「札幌～壮瞥間のバス移動」が4.6と最も高く、次いで「昼食会」が4.5であり特に地域との交流場面が多い項目における傾向が顕著に表れている。（図-1）

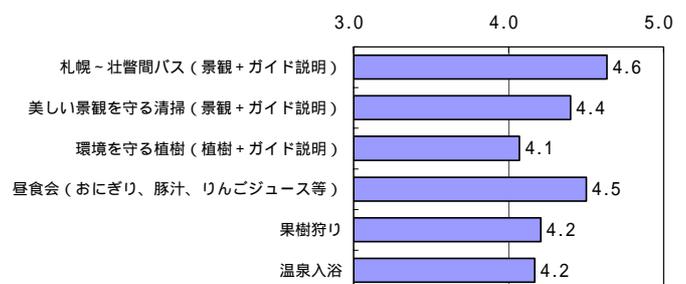


図-1 ツアーの内容に対する評価(五段階評価選択式)

植樹活動に対する適正価格については、本ツアーにおいて植樹料金として設定した「500円(13名)」が適正価格として参加者の回答としても最も多くなっている。

次回参加意向については、「また参加したい」が67.0%と最も高く、「内容によっては参加したい」の30.0%とあわせると9割強の参加者が次回も参加したい意向を示している。

また、植樹地の再訪意向については、「また現地に来て自分の目で成長を確かめたい」が86.

7%となっており、自分で植樹した場所については非常に高い再訪意向を示している。

ツアー参加後の環境に配慮した生活スタイルの改善意向については、「ゴミの減量化やリサイクルの実践」が21名と最も高く、次いで「公共交通機関や自転車の利用によりマイカーの使用を控える」が19名と多くなっており、ツアーに参加することで、参加後の環境に対する行動改善についてもその効果が期待できる。(図-2)

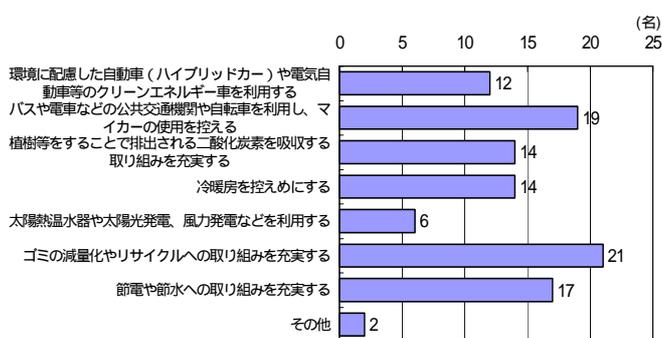


図-2 ツアー参加後の生活スタイルの改善意向

(2) 「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅の調査概要

a) 調査概要

支笏洞爺ニセコルートにおける地域資源の活用と自然環境の保全等に向けたレンタカー型カーボンオフセットツアーの可能性について検証することを目的として、札幌からのツアー参加者を対象としたアンケート調査を実施し、実証的な検証を行った。

調査項目としては、ツアー参加による意識変化を把握することを目的として、事前及び事後の調査をそれぞれの参加者に対して行った。事前調査では、参加動機や環境に対する意識等とし、事後調査では、エコドライブ実施の有無やツアー満足度等とすることで、今後のレンタカー型カーボンオフセットツアー継続に向けた検討課題を整理した。(表-2)

表-2 アンケート調査概要

調査概要	参加者《事前調査》	
	調査日	平成19年10月27日(土) ツアー開始前
	調査方法	参加者によるアンケート調査票への記入式調査
	調査項目	参加動機 環境に対する意識 その他
	参加者数	17名(札幌市からのツアー参加者)
	参加者《事後調査》	
	調査日	平成19年10月28日(日) 全工程終了後
	調査方法	参加者によるアンケート調査票への記入式調査
	調査項目	エコドライブ実施の有無 ツアー満足度 その他
	参加者数	17名(札幌市からのツアー参加者)

b) 回答者属性

レンタカーツアーの参加者は、女性が若干多くなっており(男性:41.0%、女性:53.0%無回答:6.0%)、年代的に見ると「30代」が最も多く41.0%、次いで「20代」が35%、「50代」18.0%、「40代」6.0%となり、20~30代で約7割を占めている。

c) アンケート調査結果概要《事前調査》

調査方法は、参加者に対するアンケート調査票への記入式とし、参加動機、環境に対する意識等について選択式で行った。

参加動機としては、「エコドライブ」が11名と最も多くなっており、次いで「カーボンオフセット体験」、「友人・知人の参加」がともに7名と、環境に対するニーズの高さが伺える。

普段意識または実行している行動として最も高いのが「ゴミの分別・リサイクル」88.2%となっており、次いで「節水」52.9%、「節電」41.2%となっている。「自家用車の利用抑制」5.9%は、回答のあった選択肢の中で「エコ活動への参加」と並んで最も値の低い項目となっている。

d) アンケート調査結果概要《事後調査》

調査方法は、前述の事前調査同様、参加者に対するアンケート調査票への記入式とし、エコドライブ実施の有無、ツアー満足度等について選択式で行った。

ツアー内容に対する満足度については、特に評価の高い項目として、『地域の方々と交流のあった地産地消メニューを提供した夕食』では「大変満足」が82.4%、「満足」が17.6%、『温泉入浴』では「大変満足」が70.6%、「満足」が29.4%、『カーボンオフセット体験(植樹)』では「大変満足」が64.7%、「満足」が35.3%となり、上記三項目については、すべての参加者が満足している結果となった。

エコドライブ実施の有無については、本ツアー中に実行した項目として高かったのは、「ふんわりアクセルスタート」の91.7%、次いで「早めのアクセルオフ」が83.3%、「エアコンの使用を控える」が75.0%となっている。ツアー参加をふまえ、今後ドライブ時に実施予定の項目としては、「ふんわりアクセルスタート」の92.3%が最も高く、次いで「早めのアクセルオフ」と「エアコンの使用を控える」と「暖機運転は適切に」がともに84.6%と高くなっている。

次回参加意向としては、「内容によっては参

加したい」が94.1%、次いで「また参加したい」が5.9%と参加者の全員が参加意向を示しているが、リピーターとなってもらうには何らかの工夫が必要であると考えられる。

また、植樹地の再訪意向については、「訪れたい」が94.1%となっており、前述のバスツアー同様、自分で植樹した場所については非常に高い再訪意向を示しているといえる。

今回のツアーで植樹したことによる環境に対する意識変化の有無については、64%の参加者が「変わった」と回答している。(図-3)

またどのように意識が変化したかについては、「もっと勉強したいと思うようになった」が54.5%、「他の体験をしたいと思うようになった」36.4%とカーボンオフセット型ツアーへの参加による参加者の環境に対する意識変化が表れている。

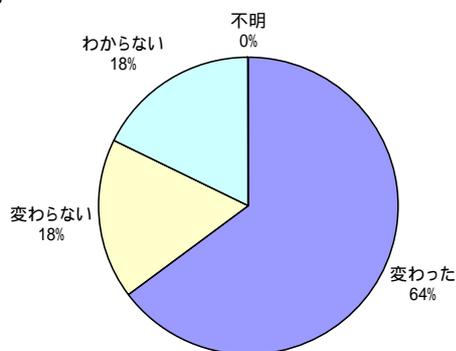


図-3 植樹したことによる環境に対する意識の変化

4. 考察

(1) モニター調査を通じた効果

今回の調査を通じた効果として、以下の項目が挙げられる。

カーボンオフセット型ツアーの有効性を確認

- ・植樹やエコドライブを経験することにより、参加者が環境について考えるきっかけにつながる。
- ・自ら植樹をすることで再来訪意向が高まる。

参加者の満足度に寄与するのは「人」「食」「交流」「環境」等

- ・従来型の一方的な説明ではなく、対話型ガイドにより参加者の体験意欲や知的好奇心を高める。
- ・地域活動団体との協働により、一般のツアーにはない、ひざを付き合わせた交流が可能。
- ・訪れた「地」に魅力的な人(知り合い)がいると、リピーター率も上がる。

既存の観光メニュー、地元の取り組みの活性化に繋がる

- ・広域的な連携体制による既存メニューの積極的

な活用のきっかけ、モデルになる。

地域を愛する人を増やすことで地域を元気に

- ・地域資源の活用により、多彩なメニューを開発するきっかけにつながる。
- ・観光産業の振興に加え、新たな地場産業の創出も期待できる。

(2) 自然環境の保全とドライブ観光推進の両立の可能性に向けた今後の展開

前述の効果等をふまえ、地域活動団体との協働による自然環境の保全とドライブ観光推進の両立の可能性について考察する。

a) ニーズに応じたツアー企画の立案

参加しやすいツアー形態、メニューの提供。

- ・家族参加、日帰りを想定：バスツアー(主に50~60代)
- ・友人・知人との参加、宿泊を想定：レンタカードライブ等(主に20~30代)

b) 植樹以外のアクティビティの充実

シーニックならではの付加価値をいかに見つけるか、また、ツアー参加者は最終的には「人」を見ているため、現地ガイドの重要性、発掘及び育成。

c) 適切な情報発信・提供と情報共有

各種メディア機関との連携体制の構築やホームページ等によるリアルタイム情報の受発信。

d) 受け入れ側のホスピタリティ充実

地域と行政それぞれにおける、以下のような受け入れ態勢の構築。

- ・地域：地元の受け入れ、ランドオペレーターの徹底
- ・行政：植樹用地の選定・確保、各種メニューの活用補助等

5. おわりに

地域活動団体との協働によるカーボンオフセット型モニターツアーの結果、参加者の環境に対する意識の高さとニーズが明らかになった。また、地域との交流や地域の方々による対話型ガイド等が参加者のツアー満足度を高めるのに非常に効果的であった。最後に本調査にご協力いただいたシーニックバイウェイ北海道の洞爺湖エリアの活動団体の皆様に感謝いたします。

参考文献

- 1) シーニックバイウェイ北海道 ホームページ
<http://www.scenicbyway.jp/>
- 2) チーム・マイナス6% ホームページ
<http://www.team-6.jp/index.html>
- 3) シーニックバイウェイ支援センター：「ニューツーリズム創出・流通促進事業」実証事業実施報告書
平成20年3月